

'09 年度フィールドワーク「中国伝統文化及び現代社会考察」の報告

Report on the Field Work: Study of Modern and Traditional Culture of China

張 雷¹

Lei Zhang²

キーワード：フィールドワーク，北京研修，社会考察，日中交流，文化体験

1. はじめに

2009年8月1日～8日まで、私は本学国際文化学部の教育方針の一つであるフィールドワークを実施するために国際コミュニケーション学科の学生5名を引率して北京を訪ね、中国の大学生と交流し、中国の伝統文化、世界遺産、名勝古跡を見学し、また現代化都市の北京を考察した。

今回の北京訪問および学生交流を通して、学生諸君が見たこと、触れたこと、習ったことおよび各自の感想、そして北京を見学・考察する理由および活動内容などについて報告したい。

2. 北京を見学・考察する理由

北京は中華人民共和国の首都として全国の政治、文化、科学、教育の中心であり、交通の中核でもある。

北京には3,000年の歴史を有する古都として、数多くの名勝古跡と文物や旧跡が残されている。世界的に有名な万里の長城の要塞の地—八達嶺と居庸関は北京の西北部、バスで約1時間の距離にある。世界最大でもっとも完全な古代建築群からなる故宮（紫禁城）は北京市内の中心にあり、明代（1368年～1644年）、清代（1644年～1911年）の両王朝の24人の皇帝はここで政務を勤め、ここに居住していた。西の郊外にある頤和園は帝王の離宮、庭園であり、園内は山紫水明、殿閣亭台がそびえ、回廊がめぐり、園林芸術の傑作と言われている。市内の北海、景山、天壇、地壇、庸和宮などの建築は中国文化史、建築史および園芸史において、極めて重要な地位を占めている。

北京は、中国の窓口であり、改革・開放政策が実施されてから、北京も大きな変貌を見せ、約1,500万人の人口を擁するモダンな大都会になった。北京は「最も古く、最も新しい世界の大都市」と言える。北京は、何度行ってもそのたびにいつも新鮮な驚きと感動を与えてくれる魅力に満ちた発展途上の大都市である。

また、北京は、中国食文化を体験する最も良い場所である。北京には全国各地の名料理店が集中し、山東料理、四川料理、江蘇料理、浙江料理、広東料理、湖南料理、福建料理、安徽料理と言われる八大料理および北京料理、上海料理、東北料理、天津料理、客家料理、薬膳料理、精進料理、宮廷料理などの1万種類以上の料理と軽食を味わうことができる。北京の伝統的な住宅—「四合院」や安らいだ雰囲気包まれた「胡同」及び朝の太極拳、夜の「大秧歌」などすべて魅力が溢れている。これら

¹ 東海大学国際文化学部国際コミュニケーション学科，005-8601 札幌市南区南沢5条1丁目1-1

² Department of International Communications, School of International Cultural Relation, Tokai University, 5-1-1-1 Minamisawa, Minami-ku, Sapporo 005-8601, Japan

が学生を率いて北京を見学・考察する理由である。

3. 北京滞在

①主な見学・考察の内容

- 8月1日(土) 千歳空港発 北京到着 ホテル宿泊 夜四川料理賞味
- 8月2日(日) 天安門広場, 故宮博物院, 北海公園, 団城, 夜北京ダック賞味
- 8月3日(月) 世界遺産頤和園, 仏香閣, 長廊, 銅亭, 十七孔橋, 文昌院, 夜東北料理
- 8月4日(火) 万里の長城, 好漢坡, 中国の大学生と交流, 夜広東料理賞味
- 8月5日(水) 日中戦争勃発地の廬溝橋と宛平城見学, 戦争から思考, 体育会場鳥の巣
- 8月6日(木) 世界遺産天壇公園, テレビ塔, 市内考察, 夜北京料理賞味
- 8月7日(金) 中国の大学生と交流, 繁華街見物, 買い物, 帰国の準備, 記念写真撮り
- 8月8日(土) 北京空港発 千歳到着 教学部長の平木先生が千歳空港迎え, 解散

②北京での滞在先

北京如家酒店小西天ホテル

各部屋には, テレビ・クーラー・電話・お湯・トイレ・シャワー, 飲料水完備

③中国伝統文化及び現代社会の考察の参加者

里見(会計)

宇藤

谷村(班長)

清水

小笠原

引率教員 張雷

4. 北京見学・考察を通じて見たこと, 触れたこと, 習ったこと

①天安門

天安門は, 明の永楽15年(1417年)に建てられた。高さは33.7メートルで, 当時は「承天門」と呼ばれていたが, 清の順治8年(1651年)に改築され, 「天安門」と改めた。天安門には五つの通路があり, 皇帝は中央の門から出入りした。明, 清の時代, 皇帝の詔書を発する儀式がこの天安門で行われた。天安門の前に五つの白大理石の橋は「金水橋」と呼ばれ, 彫刻がとても美しい。

天安門の屋根には, 11の吉祥があり, それぞれ竜, 鳳凰, 獅子, 天馬, 海馬, 獬豸, 押魚, 孟昶, 斗牛, 行什と鳳凰に乗る仙人である。竜, 鳳, 天馬, 海馬は吉祥の象徴で, 獬豸, 孟昶, 沸徨は正義の猛獣のシンボルで, 斗牛鎮火の神獣, 行什は神猿で悪鬼を退治し, 宮殿を守ることができると古代中国人は信じていた。

②天安門広場

天安門広場は面積44万㎡で, 南北の長さは800メートル以上, 東西の幅は500メートル以上で, 地球上の最大の広場で, 50万人もの集会ができる広場となった(図1)。

天安門広場の東側に中国歴史博物館と中国革命博物館があり, 西側に人民大会堂(日本の国会議事堂に当たる)があり, 天安門の正対面には人民英雄記念碑があり, その裏には毛主席記念堂がある。

毛沢東の遺体は水晶の柩に安置されている。

③故宮

故宮は昔「紫禁城」と呼ばれ、世界に現存する規模の最も大きい、最も完全に保存されている帝王の宮殿である。故宮は北京の中央に位置し、敷地面積は72万㎡で、南北の奥行は960メートル、東西の横幅は750メートルの長方形の城である。周囲は高さ10メートルの城壁で囲まれ、城壁の外側には幅52メートルの堀があり、城内には部屋数は9999.5あり、建築面積は16万㎡ある。故宮は主に「前朝」と「内廷」に分かれている。「前朝」は金箔に輝く「太和殿」、「中和殿」、「保和殿」という三大宮殿を中心として、「文華殿」と「武英殿」が両側に立っており、主に皇帝が厳かな式典を行い、権力を示す場所である。「内廷」は「乾清宮」、「交泰殿」、「坤寧宮」、「御花園」を中心として、両側に東西六宮などの宮殿と「養心殿」、「太極殿」、「宝華殿」、「奉先殿」、「皇極殿」、「養性殿」など数多くの宮殿が立ち並んでいる。皇帝と皇后、妃、王子、公主たちの日常生活の場所である。故宮は明の永楽4年(1406年)に工事にかかり、永楽18年(1420年)に出来上がり、14年間を費やして、1万人の職人と100万人の労力を使い、築きあげた。明、清両代の皇居として、前後24人の皇帝がここに住んでいた。現在105万にのぼる貴重文物と国宝が保存されているので、いま「故宮博物院」と名付け、世界の観光客を迎えている。



図1 天安門広場



図2 万里の長城

④頤和園

頤和園は中国に現存する規模の最も大きい、最も完全に保存されている皇帝の庭園の一つである。ここはかつて清朝皇帝の避暑離宮であった。頤和園は万寿山と昆明湖とで構成され、総面積は290万㎡で、湖の面積は全体の3/4を占めている。頤和園はすでに800余年の歴史を持っている。1153年、金の時代に皇帝がここに行宮を作らせた。金から清まで数百年の年月の中に、3,000余りの殿堂亭閣が建てられた。その中に、仏香閣、諧趣園、仁寿殿、銅亭、石舫、知春亭、智恵海、徳和園、宜雲館、玉瀾堂、排雲殿、景福閣、画中遊、聴驪館、扇面殿、養雲軒、写秋軒、円朗齋、雲雪巢、文昌院、多宝塔などが散在し、観光客を魅了した。とくに頤和園の東の邀月門から西の石丈亭まで、長さ728メートルの長廊には梁などの所に色彩画が描かれてあり、大小約1万4000枚に達していて、これは全部中国歴史の物語や美しい南の杭州の西湖風景であり、数多くの色彩画の中には、同じものはない。

昆明湖には、柳橋、幽風橋、玉帯橋、鏡橋、練橋、界湖橋などの橋がそれぞれの形で島をつなげて

いて、その中に長さ 150 メートルの十七孔橋が虹のように青い波の上に跨っている。橋の手すりには大小 544 匹の獅子が浮き彫りされている。島には竜王廟などたくさんの古風な建築がある。

⑤天壇公園

中国のシンポルの一つ天壇公園は明・清朝を通じて、皇帝が五穀豊穡と降雨を天の神様に祈ったところである。明の時代 1420 年に建てられ、最初は「天地壇」と名付けられた。のちに清の乾隆帝の時代に改築され現在見られるような形となった。中には祈年殿、皇穹宇、圜丘壇、回音壁、三音石、祈谷壇、皇乾殿、丹陛橋、神樂署、長廊、齋宮などがある。北京には、故宮を中心として東に日壇、西に月壇、南到天壇、北に地壇があり、それぞれの太陽の神様、月の神様、地の神様が祭られ、天壇では、天の神様が祭られている。圜丘は天の神様に祈るところである。皇帝は毎年冬至にここで「三跪九叩」して天に祈った。天壇公園の面積は 273 万平方メートルで、敷き内には、樹齢 300 年から 600 年の古樹は 2,600 本もある。



図3 東安商場の茶室



図4 鳥の巣

⑥万里の長城

世界的に有名な長城は中国古代文明の象徴であり、戦国時代（紀元前5世紀）から作り始められ、すでに 2,500 年の歴史を持っている。斉国が一番早く長城を作った国である。その後、各国は相互防衛のため、それぞれの国境線に城壁を築いた。また、秦、燕、趙三国は北部の強い騎馬民族の匈奴の侵入を防ぐため、それぞれ自国の北部に長い城壁を作った。紀元前 221 年、中国を再統一した秦の始皇帝は秦、燕、趙などが建てられた長い城壁をつなぎ合わせ、拡大し、十数年間を費やして、長さ 6,350 キロメートルの長城が完成した。（2009 年 4 月、中国に発表された最新の調査結果によると、長城の総延長は 8,851.8 キロメートルになった）。明朝以前の長城は黄土、石材で作られていたが明朝では石とレンガで土壁を覆ったのである。

万里の長城は西の甘粛省の嘉峪関から東へ延々と伸びて、山海関まで全長 1 万 2,700 里（里は中国の長さ単位で、1 里=0.5 キロメートル）で、故に万里の長城と称されていた（図2）。

⑦盧溝橋

盧溝橋は石橋として北京の西南から 20 キロメートル離れている永定河にある。金の時代明昌三年 1192 年に作られ、800 年の歴史を持っていた。盧溝橋は孔橋として十一の孔があり、全長は 266.5 メートルで、幅は 7.5 メートルである。橋の両端にそれぞれ華表一対あり、石の欄干に刻まれた表情各違の精巧な獅子が 501 体あり、橋の東側に乾隆帝が自ら書いた“盧溝曉月”という石碑がある。盧溝曉月も

著名の燕京八景の一つである。橋はとても綺麗で、中国橋の建築史上の傑作の一つであり、マコ・ポロはかつて“この橋は世界で一番美しく、唯一無二のものだ”と称賛したそうである。

廬溝橋も日中戦争勃発地でもある。1937年7月7日、夜十時、日本軍と中国軍の武力衝突が起こり、ついに全面戦争が勃発した。その後、中国共産党軍と国民党軍は統一戦線が結成し、全国規模の抗戦が始まり、8年間の日中戦争が続いた。我々は今日廬溝橋を訪問し、日中両国共に深刻な災難をもたらした60年前の戦争に思いをはせ、平和を願った。

⑧宛平城

宛平城は廬溝橋の東側にあり、大昔は小さい町であったが1640年に作られ、北京の護衛城として“拱北城”と名付けられ、清の時代に“拱極城”と改称し、その後、国民時代に宛平城と呼ばれていた。《日下旧聞考》によると、この町はかなり賑やかな町であった。残念ながらこの商売繁盛、平和無事の宛平城は日中戦争の“七・七事変”の主戦場になった。いま現在、宛平城の城壁に日本軍の攻撃大砲の弾跡もたくさん残されている。

なお、これらの史跡に関する詳しい記述は、文献(北京百科全書編集委員会(1990), 高占祥, 他(1994))を参照してほしい。

5. フィールドワーク参加者の一言感想

里見:

今回の中国でのフィールドワークでは、本当に沢山の発見がありました。故宫博物院に始まり、世界遺産の万里の長城や頤和園等、様々な場所を一部でもこの目で見る事が出来て、感動しました。また、同時に歴史の重みを感じました。

同じぐらい印象に残っているのは街中の風景です。テーマパーク内では、あらゆる場所でアイスキャンディーを売る人や凍らせた水を売る人、玩具を売る人が沢山いました。余程暑いのか、シャツを胸の下あたりまで巻き上げて歩いているおじさんが目立っていたり、女性が持っている派手目な日傘がキラキラと眩しかったり……。流行っているのかどうかは分かりませんでした。赤信号でも横断出来てしまう場面があったり、車道の真ん中で車をやり過ごしながらも平然としている姿は、日本では見られないものでした。

8日間通してずっと思っていたことは「ここは何で自由なところなんだろう」。人々がのびのびしている様に思えました。本当に面白かったです。中国の大学三年生の甜甜と一緒に過ごせて、楽しい思い出が出来ました。またいつか一緒に「吹喇叭」がしたいです。甜甜, 多謝, 多謝!

宇藤:

今回のフィールドワークを通して自分は様々な事を経験することができ、本当に良かったと思います。

7泊8日という短い間ではありましたが、中国の生活や文化など、そういった普段体験することができないことを肌で感じ、学ぶことができ、自分にとってとてもプラスになったと思います。

また、中国の大学生とも交流をする機会を設けてもらい、色々話を聞くことができました。同じ年代ということもあり自分にとって良い刺激になったと感じます。そして馴れない中国語などでコミュニケーションをはかれたことは良い経験になったと思います。

今後、このフィールドワークを生かして様々なことに興味を持ち行動に移せたらと考えています。



図5 北京オリンピック主会場



図6 中国茶の賞味

谷村:

今回初めて中国を訪れて、日本とは異なる文化に触れることが出来ました。中国の世界遺産など様々な場所を見たり触れたりして、とてもよい経験をしました。中国の歴史の長さ、人口の多さや街や建造物の大きさなどを感じることもできました。しかし中国の良い点なども肌で感じることもでき、そのことを思うとまだ発展途中の国だと思いました。

中国の大学生とも交流でき、お互いにの国についてなど様々なことを話し合いました。

中国の食文化も体験し、いままで食べたことのないものなども食べたりしてとても良かったです。

フィールドワークを終えて、色々なことを体験したり、考えさせられたりし、とても良い体験が出来たと思います。

清水:

7日間、中国に滞在して文化の違いをすごく感じた。まず、交通ルールは日本では歩行者優先が基本だが、中国では車が優先で、信号が青で横断歩道を渡っていても、車は平気で横切り、クラクションを鳴らしてくる。食の方では、量が多く、安くて味も美味しかった。ただ、お皿がかけていたり、よごれていたり、衛生面が気になった。

中国には日本で見たことのない様な物や風景がたくさんあり、一週間では物足りないので機会があればまた行きたい。

小笠原:

7日間という短い期間でしたが、中国の様々な文化を体験することができました。万里の長城や天安門広場などの世界遺産やテレビ塔や鳥の巣などの観光スポットに行ったり、一般的なレストラン、スーパーに行ったことで多くのことを感じ、学ぶことができました(図3-6)。一番印象的だったのが、北京という街には近代的な建物や裕福な生活と、日本から見たらきたなく感じてしまう暮らしの両方が混ざっていると感じたことです。中心地の風景は札幌よりも立派に見えるくらいですが、少し移動するだけでゴミが散らばっている庶民的な生活が感じられました。このような貧富の格差が様々な場面で見ることができました。多くの問題をもっと学び、機会があればまた中国へ行き、もっと色々なことを発見したいと思います。

6. 終わりに

今回のフィールドワークー中国の伝統文化及び現代社会の考察, そして中国の大学生との交流を通して, 異文化, 異国の風俗, 習慣, 生活などを自ら体験したことは国際コミュニケーション学生諸君にとって本当にいい勉強になったと思う。

国際コミュニケーション学科の学生にとって, 教室での異文化の勉強と海外での異文化の体験を結合させていけば, 異文化ばかりでなく, 異国に対する理解は一層深くなるだろう。特に引率教員と一緒に行動し, 引率教員が案内してくれれば, 教材では教えられない様々な知識を身につけることもできるし, 安全の面では個人旅より集団の方が安心できるし, 経済の面でも一部の費用は節約できるようになる。

今回のフィールドワーク・北京見学・考察は楽しく, 面白く, 無事故, 無盗難, 無過失, 安全, 順調に終了させることができ, 協力してくれた日中両国のすべての関係者に心から感謝の意を表す。

参考文献

- 高占祥, 他 (1994), 『中国文化大百科全書』, 長春出版社, 長春市, pp. 80, 81, 84, 88, 92
北京百科全書編集委員会 (1990), 『北京百科全書』, オリジナル出版社, 北京市, pp. 19, 68, 160, 289, 414, 481

(受付: 2009年9月8日, 受理: 2009年10月9日)